会員のみなさまと学会を結ぶ

No.46 2013

Letter for Members

【コンテンツ】

●公益社団法人への移行のお知らせ …… 241
●支部学術大会報告 …… 241
●第 60 回 JADR 学術大会シンポジウム …… 244
●8th Biennial Meeting of AAP …… 245

公益社団法人への移行のお知らせ

かねてから申請しておりました公益社団法人への移行につきまして，平成 25 年 3 月 21 日付けで内閣府に認定され，平成 25 年 4 月 1 日から本会は公益社団法人へ移行いたしました．

公益社団法人 日本補綴歯科学会
理事長　古谷野　潔

支部学術大会報告

●東関東支部学術大会

平成 24 年 11 月 18 日（日），京成ホテルミラマーレ（千葉県千葉市）にて明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野 大川周治大会長のもと平成 24 年度社団法人日本補綴歯科学会東関東支部総会・第 16 回学術大会が開催されました．また，本学術大会は，平成 24 年度第 15 回千葉県歯科医学大会との共催でもありました．一般口演 10 題，専門医ケースプレゼンテーション 2 題が発表され，活発な質疑応答が行われました．短い時間ではありましたが，220 名と多くの方々にご参加いただき，参加者同士の交流を深める場として有意義な学術大会でありました．

併催された生涯学習公開セミナーでは，日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第 1 講座教授 志賀　博先生をお招きして，「有床義歯における咀嚼機能検査―先進医療に関連して―」というテーマでご講演いただきました．講演後，会場において活発な質疑が行われました．

生涯学習公開セミナーでの志賀　博先生（左）

専門医ケースプレゼンテーション

専門医研修会

特別講演では，韓国京畿道歯科医師会より Dae-Gyun Choi 先生をお招きして「Full Mouth Rehabilitation」と題して，その理論・治療術式について解説していただきました．

また，県民公開講座では，「食事・栄養・健康―きちんと噛んで，楽しい食事　栄養は健康の源―」をテーマとして，鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座教授 森戸光彦先生をお招きして，超高齢社会の補綴臨床についてご教授いただきました．

なお，学術大会の前日には，支部として最初の専門医研修会を開催し，参加者総数は，117 名と盛会な研修会となりました．　（明海大　大川周治，岡本和彦）

●平成 24 年度東海支部学術大会

平成 24 年 12 月 15 日（土），16 日（日）に，愛知学院大学歯学部高齢者歯科学講座の服部正巳を大会長とし，平成 24 年度東海支部総会ならびに学術大会が愛知学院大学の楠元キャンパス 110 周年記念講堂において開催されました．一般口演 17 演題，ポスター発表 2 演題，専門医申請ケースプレゼンテーション 1 演題の発表があり，活発な質疑応答が交わされました．また，市民フォーラムと生涯学習公開セミナーが併催されました．総参加人数は 318 名でした．

市民フォーラムは『一生おいしく食べるには＝よい義歯とは＝』というテーマで行われ，朝日大学歯学部の都尾元宣先生から「義歯と仲良くおつきあい」，また松本歯科大学の黒岩昭弘先生から「入れ歯を上手に使いましょう」と題したご講演をいただきました．座長は愛知学院大学歯学部の伊藤　裕先生にお務めいただきました．義歯をテーマにして一般の方々に理解しやすいお話をいただき，市民に補綴歯科学を理解していただく良い機会となったと思われます．

生涯学習公開セミナーは『CAD/CAM の現在と未来』というテーマで行われ，愛知学院大学歯学部の伴　清治先生から「CAD/CAM 用歯科修復材料の現状と将来展望」，東京医科歯科大学歯学部の三浦宏之先生から「CAD/CAM が拓く新しい補綴歯科治療」というご講演をいただきました．座長は大会長の服部正巳が務めさせていただきました．補綴装置の製作に欠かすことのできない方法となりつつある CAD/CAM の最新情報について深く学ぶことができました．（愛院大 竹内一夫，古田弘樹）

市民フォーラムの様子

市民フォーラム，
左から黒岩先生，
都尾先生，伊藤先生，
服部先生

生涯学習公開セミナー，
左から伴先生，服部先生，
三浦先生

●西関東支部学術大会

平成 25 年 1 月 20 日（日）に神奈川県歯科保健総合センター/神奈川県歯科医師会館において，平成 24 年度(社)日本補綴歯科学会西関東支部学術大会ならびに総会を第 11 回神奈川県歯科医師会学術大会と共催で，神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講座クラウンブリッジ補綴学分野 木本克彦教授を大会長として開催いたしました．

今回の支部大会では，口演発表 14 演題，専門医申請ケースプレゼンテーション 2 演題が発表され，参加者は 161 名でした．特別講演は船登彰芳先生（関西支部）から「光機能化インプラントの臨床例とその可能性」の

生涯学習公開セミナー

テーブルクリニック風景

大久保支部長（右）と木本大会長

テーマでご講演いただき，最近のインプラント治療における光機能化の補綴応用について臨床家として第一線を走られている先生の貴重な症例を中心にご教授いただきました．また生涯学習公開セミナーとして，大久保力廣先生(鶴見大学有床義歯補綴学講座教授)の座長のもと，谷田部優先生（東京支部），有田正博先生（九州歯科大学顎口腔欠損再構築顎分野准教授）の先生方で「ノンメタルクラスプデンチャーの補綴学的評価」をテーマに補綴専門医が必要な基礎知識から今後の展望までをさまざまな角度から講演をしていただきました．さらに，今回の支部大会の試みとして，テーブルクリニックを開催したしました．小池軍平先生(横須賀市開業)による「CAD/CAM 補綴の実際（Chair-side type CAD/CAM)」を，また小川勝久先生(神奈川歯科大学客員教授)による「ピエゾサージェリーを用いた欠損歯槽堤の補綴前処置」と各分野でご活躍の先生方による日常臨床に役立つポイントを分かりやすく実技を見せていただきながらご講演していただきました．どの講演でも参加された先生方の活発な質疑が行われました．

1 日のみの短時間で冬の寒い時期でしたが，日常臨床に役立つ内容から先端の治療法や研究内容についての研鑽の場となり，また参加者の交流と熱い討議が行えた大会となりました．（神歯大　星　憲幸）

●関西支部学術大会

平成 24 年度(社)日本補綴歯科学会関西支部総会ならびに学術大会が，平成 25 年 3 月 2 日（土)，3 日（日）の 2 日間，小正　裕大会長のもと，ピアザ淡海滋賀県立県民交流センターで開催されました．

本学術大会では昨今のインプラントに対する状況を踏まえ，歯科補綴学の立場から，「口腔インプラント補綴治療」がメインテーマとして掲げられ，特別講演 1 題，一般口演 22 題あり，専門医申請ケースプレゼンテーションでは，北は北海道，南は九州からのあわせて 10 題もの発表がありました．また参加者は 297 名と大変盛会な学術大会となりました．

特別講演には九州歯科大学歯学部長 口腔機能再建学講座 細川隆司教授をお招きし「インプラント補綴治療における咬合と力のコントロール―限られたエビデンスをもとに推奨できる治療介入を考える―」をテーマに，現在明らかになっているエビデンス，病態の解釈および診断法を整理するとともに，咀嚼機能の長期維持を目指すための有効かつ適用可能な臨床的対応についてお話しいただきました．

併催された生涯学習公開セミナー「これからの補綴に生かせる再生医療と生体材料」では，コーディネーターに大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野 矢谷博文教授，シンポジストとして大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座口腔生体材料学分野 寺岡文雄准教授，大阪歯科大学口腔インプラント科 馬場俊輔教授，医療法人貴和会歯周インプラントセンター新大阪診療所 佐々木猛院長をお招きし，それぞれのお立場から寺岡先生には「上部構造と対合歯の材料がインプラントに及ぼす影響」，馬場先生には「インプラント治療における骨再生材料の現状と動向」，佐々木先生には「インプラント上部構造についての新しい概念とその実際」についてお話しをいただきました．講演後の討論会では，会場からもインプラント補綴治療に対する現状の問題点や今後の可能性について活発な質疑応答が寄せられました．会場周辺ではびわ湖毎日マラソンが開催され，時折雪の舞う寒い二日間ではありましたが，会場内は充実した内容で熱気あふれる有意義な学術大会でありました．（大歯大　髙橋一也）

特別講演の細川隆司先生と
小正　裕大会長

生涯学習公開セミナー

第60回JADR学術大会シンポジウムのご報告

魚島勝美（新潟大）

平成24年12月14日，15日に新潟朱鷺メッセにおいて山崎和久大会長の下，第60回国際歯科研究学会日本部会（JADR）学術大会が開催されました．

今回の企画の一つとして日本補綴歯科学会によるシンポジウムを開催できないかとの打診をいただきましたので，古谷野潔理事長，市川哲雄学術委員長とご相談の結果，本学会の企画協力という形でシンポジウムを担当させていただきましたのでご報告いたします．従来，本学会会員のJADRへの参加者が少なく，村上伸也会長のご意向もあって，今後の本学会会員の参加を促すという意味もあったようです．本学会の立場で考えれば，本邦の歯学研究におけるわれわれのプレゼンスを示すという意味では意義があると思われました．本シンポジウムには最終日2日目の最後の企画であったにも関わらず大変多くのJADR会員が参加してくださり，成功裏にシンポジウムを終えることができました．

本シンポジウムのタイトルは「Biological Perspective of Future Prosthodontics」で，大阪大学の江草先生には口腔粘膜を用いたiPS細胞の確立と臨床応用の可能性について，九州大学の牧平先生にはインプラント周囲炎に関連すると思われる免疫反応について，新潟大学の秋葉先生にはヒストン脱アセチル化酵素阻害剤を用いた骨代謝コントロールの可能性についてお話しいただきました．いずれの研究も歯科補綴学やデンタルインプラントに密接に関連し，かつ重要な臨床的意義をもつ研究です．今後，歯科補綴学が目指す研究の方向性の一つとして，臨床と基礎を繋ぐ研究を推進することの重要性が提示されたものと思います．

シンポジウム終了後の記念写真（左から山崎大会長，牧平先生，秋葉先生，魚島，江草先生，村上JADR会長）

今回の企画にあたってお世話になったJADRスタッフの先生方，古谷野理事長をはじめとした日本補綴歯科学会の先生方には心より御礼を申し上げます．

◆ ◆ ◆

8th Biennial Meeting of Asian Academy of Prosthodontics

Shuchi Tripathi
Department of Prosthodontics, Faculty of Dental Sciences
C.S.M. Medical University, India

The 8th Biennial Meeting of Asian Academy of Prosthodontics (AAP) and the 40th Indian Prosthodontic Society (IPS) Conference were held in Chennai, well known as the "Cultural Capital of South India," from 5 to 9 December 2012. This first joint conference of AAP and IPS, which also was the first-ever Asian Prosthodontic Conference in India, proved to be a milestone endeavour to further bond scientific cooperation and friendship between India and Asian Pacific countries. It was held by the Tamilnadu Prosthodontics and Implant Society in the Chennai Trade Centre.

Dr. T.V. Padmanabhan, current President of the AAP, and the entire organising committee left no stone unturned to make the event a truly memorable scientific and cultural experience. The biennial AAP gathering has become one of the most influential dentistry events in Asia, providing professionals in the field with many opportunities to share valuable information, experience, and ideas on national and international levels. More than 1700 delegates from throughout Asia who registered for this megaevent could exchange extensive knowledge and skills with their Asian counterparts.

The theme, "Prosthodontics: Beyond Frontiers," was appropriate in the light of oral health challenges that need to be corrected and rehabilitated. The exponential growth in science and technology has encouraged us to look beyond the frontiers challenging us. The event was blessed with a huge array of international luminaries discussing their progress and abilities.

This conference provided an opportunity to share experience and learnings in the field of prosthodontics with delegates, and speakers from 10 Asian countries (including China, Japan, Taiwan, and Korea), and the Middle East responded with outstanding lectures. To encourage the development of young academicians and scientists, this conference introduced a well-received new program, "Young Star Speaker," in which 14 promising young scholars and researchers presented selected papers.

At a special session on 9 December, organized as an IPS-JPS Symposium, Dr. Kiyoshi Koyano, President, Japan Prosthodontic Society (JPS), presented a lecture on various new projects and research activities in Japan in the field of prosthodontics. He also addressed selection criteria of the articles and

From right: Dr. U.V. Gandhi, President, IPS, Dr. K. Koyano, and Shuchi Tripathi

scope of *Journal of Prosthodontic Research*, the leading international journal of dental research. Dr. Yasumasa Akagawa, from Hiroshima University, Japan presented a lecture on postgraduate education in prosthodontics, stressing its present and future prospects. He pointed out that we need to promote more advanced research in dentistry and medicine to encourage dentists and scientists who display highly specialised skills supported by extensive knowledge. Dr. Suhasini Nagda, from India, delivered a lecture on "Academic and Social Accountability to Steer Prosthodontic Education in India." He stressed today's need for the educational institutions themselves to assess the learning environments, curricula, and assessment methods.

Twelve participants from throughout India, selected in the years 2011 and 2012 for the IPS and JPS interchange program, were congratulated at the IPS-JPS Symposium. This program has proved to be highly successful, providing a platform for young members to train and exchange ideas. The young participants were eminent professors of various Japan Dental Institutions and given an advanced training program in various prosthodontic specialties. I had been assigned to Professor M. Tanaka of Osaka Dental University. I had great experiences there not only in the field of fixed prosthodontics, but also in sharing our cultural and traditional values.

Programs of this kind are appreciated and should be enthusiastically encouraged. IPS and JPS are both greatly appreciated for initiating this interchange program. I also participated in the "Young Star Speaker" program at the conference and delivered a lecture on my research work in relation to various facial landmarks with intercanine distance.

The conference's national and international speakers shed much light on the latest developments and research activities in prosthodontics and succeeded in developing strategies to make treatment more and more effective. I returned home with this inspired wish: "May our journey of development, ideas, and experience in the field of prosthodontics extend far beyond its frontiers."

◆ ◆ ◆